

異なる動物愛護

三年 塩原沙椰

今年の夏に、家族が集まるリビングのすぐ近くの木にメジロが巣を作った。しかも、記録的猛暑のなかリビングと私の部屋のエアコンの室外機のすぐそばで。気がついたときには既に卵を産んでいたようだ。これからの季節で大きくなることができるのかと、とても心配だった。

メジロは全長十センチ前後の小さい鳥だ。主に昆虫類やクモ類を食べて生活している。親鳥を見ていると、警戒心が強かった。

鳥獣保護管理法というものがある。これによって、野鳥は守られている。人間は必要以上に野鳥を手助けすることができない。そのため私たちは、もしメジロの親鳥が帰って来なくなってしまうても、ヒナを保護することができない。私はただ成長するヒナたちを見守ることしかできない。

だが、見守ることしかできないというわけではないので、私たちができることはした。例えば、窓のシャッターの開け閉めをするときには、メジロが驚いて逃げてしまっても飛ぶことができるように明るい時間に行った。また、部屋の中でも木の横を通るときには、足音で驚かせないようにゆっくり歩いたり、私の部屋のエアコンを使う時間を減らすために夏休み中だが、日中はなるべくリビングで過ご

したりと外の気温を上げないようにするというような工夫をした。

しかし、リビングのエアコンだけは止めることができない。なぜなら、メジロと窓を一枚隔てた家の中には我が家の愛犬がいるからだ。愛犬は、二十四時間冷房完備のとても快適な部屋で生活をしている。ご飯やおやつを食べたり、散歩をしたり、遊んだりすることができている。

犬は保護法によって、健康と安全を確保することが求められている。同じ生き物でも野鳥は触ったり、捕まえて飼ったりすることができない。動物愛護といても動物の種類によって適切な対応が異なることを知った。また、これを機会に他の保護法についても興味をもったため調べてみようと思った。

メジロのヒナは、あつという間に卵からかえり、今は元気に鳴いている。メジロはあまり見すぎると警戒して、本来の巣立ちの日よりもはやく巣立ってしまう。家族みんなでヒナたちが元気に巣立つようにと願いながら見守り続けている。